

雨にも負けずに、水泳学習に励んでいるこどもたちです。



この写真は、高学年（右）と低学年（左）のプール開きの時のスナップです。今年度もお天気恵まれて、水泳学習のよいスタートを切ることができました。

私は校長として、低学年にも高学年にもプール開きで話すことがあります。それは、以下の3点です。

- ① きまりを守って安全・安心な水泳学習をすること。
- ② 水泳は全身運動であるので、体を鍛えることになること
- ③ 災害などから身を守るためにも水泳のスキルは必要な資質・能力であること

まず、水泳での事故に気をつけることは言うまでもありません。人間は、膝までの水でさえ溺れてしまうのです。楽しいけれども、細心の注意が必要な学習なのです。（引用：[浅い川でも子どもは溺れる…足を滑らせ尻もちをつく、流される力は最大で5倍近くに | ヨミドクター\(読売新聞\) \(yomiuri.co.jp\)](https://www.yomiuri.co.jp)）

命を守るために学ぶ水泳学習ですから、ふざけたり、人の邪魔をしたりしないように考えなさいと話しました。



次に、体を鍛えることの大切さについて話をしました。水泳は、全身の筋肉をまんべんなく鍛えることができる運動であること、泳ぐときに筋肉だけでなく心肺機能が鍛えられ、その他の運動にもよい影響を与えることを話しています。しかも、生涯スポーツでありいくつになってもできる運動であることも話をしています。

三つ目に泳ぐスキルは、洪水や地震による津波等の災害に見舞われたときに、身を守るためにも必要な力であることを伝えています。浮くことができたということでつながった命もあります。もちろん自然災害に対して人間一人の力はかよわいものです。でも、泳ぐことができるだけで、生存につながる可能性は確実に上がるのです。予測のつかない災害に見舞われることの多い昨今です。（裏面へ）

少しでも資質・能力を向上させなければならないのです。

先週は、雨が多く、中止になる日もありましたが、小雨の中も一生懸命に水泳学習をがんばる子どもたちの姿がありました。小雨でも、条件をクリアすれば学習できます。もちろん、天気予報で雷雲の存在や気温の変化、水温の状況まできちんとチェックしたうえで学習をしていることは言うまでもありません。先生たちも一人でも多くのこどものスキルが向上するように指導に磨きをかけています。こどもも先生もみんながんばっている本荘小です。

先日、低学年の学習に参加をしました。私も入って1年生の水慣れの手伝いをしたのですが、先生の言うことを素直に聞く子どもが多く、あっという間に上達していきました。やはり、指導者の言うことを「きちんと聞くことができる」というスキルが大切であると感じた校長先生です。来週の水泳大会が楽しみです。(校長)

校長先生の虫眼鏡「水泳学習からのスナップ」

ご紹介した通り、こどもたちは水泳学習をがんばっていますので、ご紹介します。(^-)-☆



低学年の授業。バディのチェックです。命を守るためにペアでの学習をやっています。

高学年はコース別学習。自分の能力に合わせて目標を設定しています。

